

# 2006年度第1四半期 (2006年4月1日~2006年6月30日)

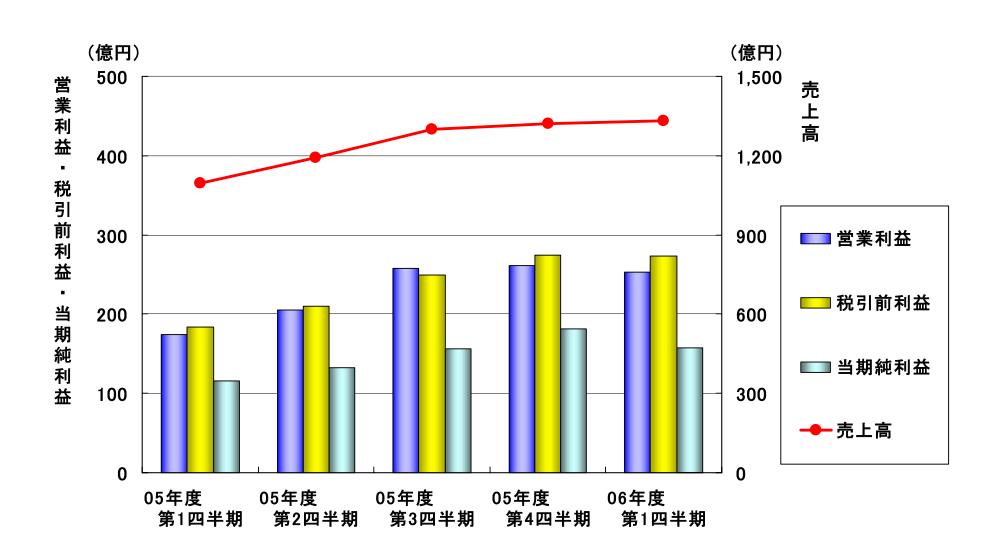
決算説明会(連結)

株式会社 村田製作所

2006年7月28日

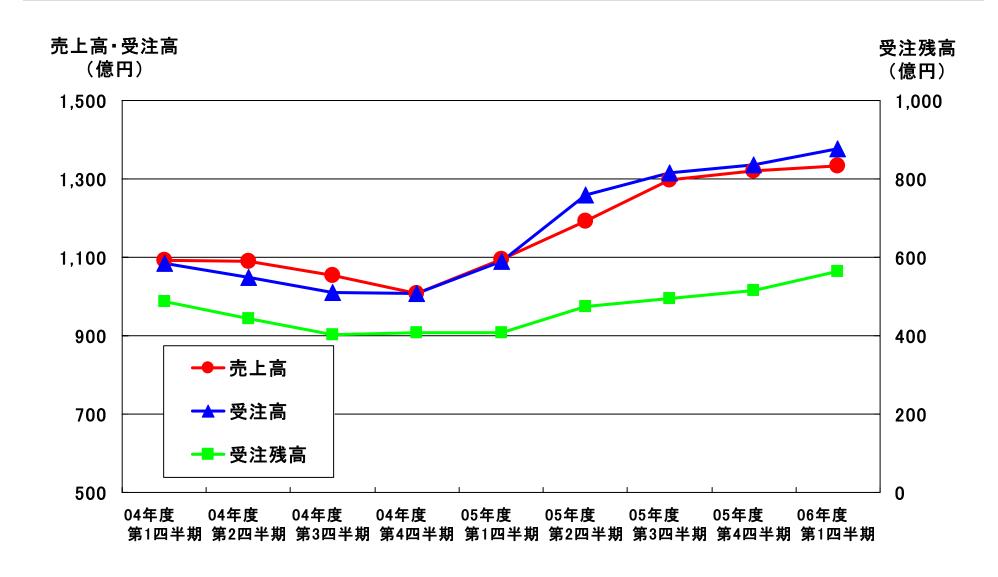
## 業績概況 (2006年度第1四半期)





## 売上高•受注高•受注残高推移





## 市場環境(2006年度第1四半期)



#### ≪2006年度第1四半期≫

- 携帯電話、PC、デジタルAV機器などの 主要機器の生産が活況
- 電子機器の高機能化が進展

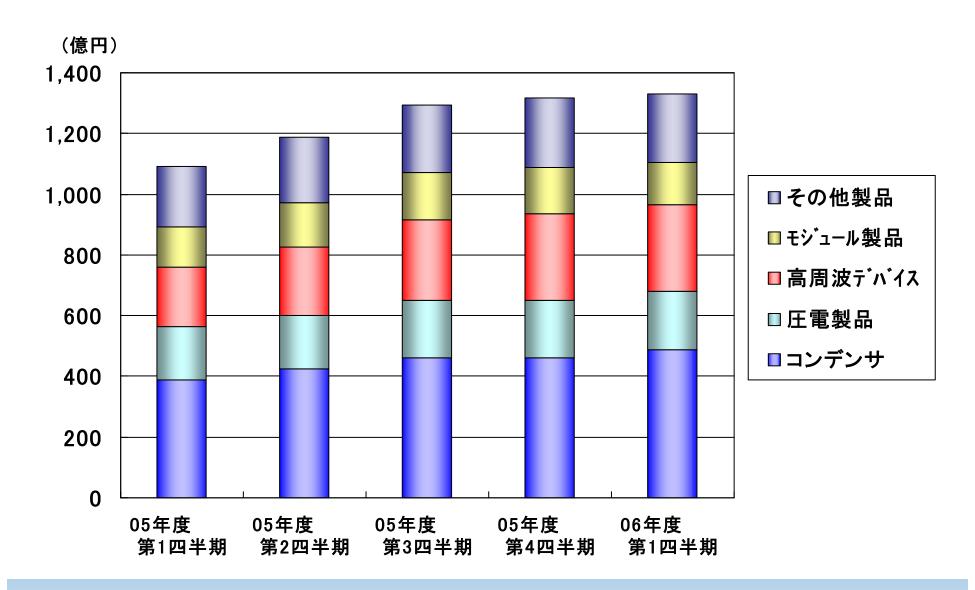


## 電子部品の需要は好調に推移



	2005年度		2006	2006年度		増減		
	第1四	半期	第1四	半期				
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)		
コンデンサ	388	35.5	489	36.8	+101	+26.0		
圧電製品	177	16.2	190	14.3	+13	+7.3		
高周波デバイス	196	18.0	286	21.5	+90	+45.9		
モジュール製品	132	12.1	139	10.4	+6	+4.9		
その他製品	199	18.2	226	17.0	+27	+13.5		
製品売上高計	1,092	100.0	1,329	100.0	+237	+21.7		







- 1)コンデンサ(489億円、前年同期比+26.0%) チップ積層セラミックコンデンサ
  - ・大容量コンデンサが、AV機器向け、通信機器 向けやPC及び関連機器向けで大幅に伸長
  - 0603サイズなどの小型コンデンサは、 通信機器向けを中心に大幅に伸長
  - ・低ESLコンデンサは、PC/MPU向けを中心に 大幅に伸長



- 2) 圧電製品(190億円、前年同期比+7.3%)
  - 表面波フィルタ 通信機器向けで大きく伸長
  - 圧電センサ 小型HDD向けショックセンサが伸長
  - セラミック発振子 カーエレクトロニクス向けで伸長したが、AV機器 向けやPC及び関連機器向けで減少
  - セラミックフィルタ AV機器向けで減少



3) 高周波デバイス (286億円、前年同期比+45.9%)

Bluetooth®モジュール

携帯電話へのBluetooth<sup>®</sup>搭載率が上昇し、 売上高が大幅に伸長

多層デバイス

通信機器向けで減少

アイソレータ

通信機器向けで大きく伸長

(注)Bluetoothは米国Bluetooth SIG, Inc.の商標です



4) モジュール製品(139億円、前年同期比+4.9%)

#### 電源

薄型テレビなどのAV機器向けや、PC及び関連機器向けで大きく伸長

回路モジュール

通信機器用サブモジュールは大きく減少



5) その他製品(226億円、前年同期比+13.5%)

EMI除去フィルタ

AV機器向け、携帯電話向け、PC及び関連機器向けで大きく伸長

チップコイル 通信機器向けなどで大きく伸長

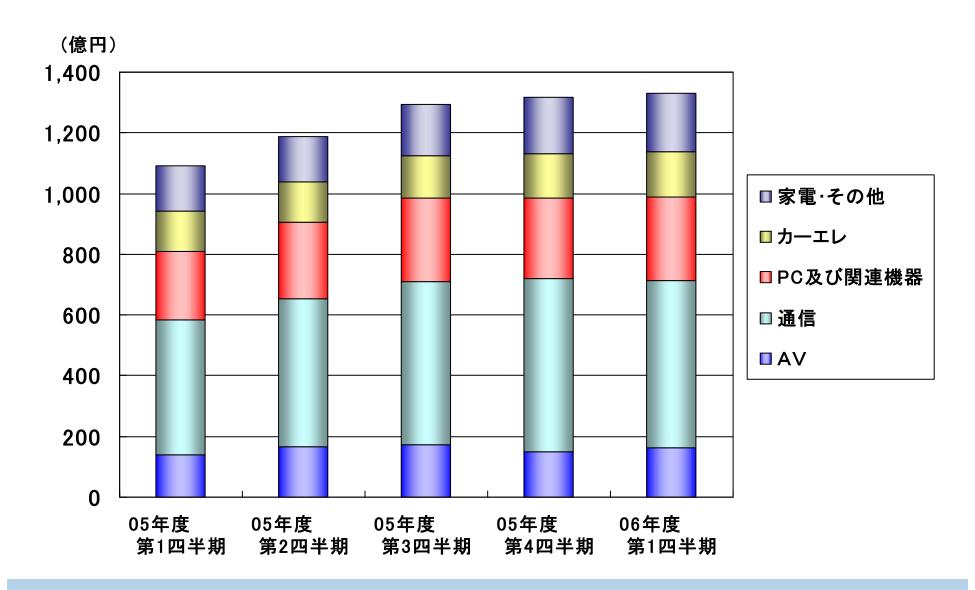
ジャイロセンサ
デジタルスチルカメラ向けで大きく伸長

サーミスタ チップタイプの製品が大きく伸長



	2005年度		2006	2006年度		増減		
	第1四	半期	第1四	半期				
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)		
AV	138	12.6	162	12.2	+24	+17.2		
通信	447	40.9	551	41.5	+104	+23.4		
PC及び関連機器	226	20.7	275	20.7	+49	+21.6		
カーエレ	131	12.0	149	11.2	+18	+14.1		
家電・その他	150	13.8	192	14.4	+42	+27.7		
製品売上高計	1,092	100.0	1,329	100.0	+237	+21.7		







1)通信 (551億円、前年同期比+23.4%)

携帯電話向け

中国、インドなど新興地域における需要の増加 第3世代機向けなどの高機能端末の需要台数 が拡大

Bluetooth®モジュールが大幅に伸長

その他通信

無線LAN向け需要の増加



2)PC及び関連機器(275億円、前年同期比+21.6%) PC向け

> MPU向けで低ESLコンデンサが大幅に伸長 ノートPC向け需要の拡大

周辺機器向け

HDD向けでは、ショックセンサが伸長 プリンタ向けでは、電源が大幅に伸長



3)AV機器(売上高162億円、前年同期比+17.2%)

デジタルスチルカメラ向け

ジャイロセンサが大幅に伸長

液晶/PDPテレビ向け

大容量コンデンサ、EMI除去フィルタ、電源が 大きく伸長

ゲーム機向け

コンデンサ、EMI除去フィルタが大きく伸長



4)カーエレクトロニクス (149億円、前年同期比+14.1%)カーナビ、カーオーディオ、RKE(リモートキーレスエントリー)向けで、大容量コンデンサ、Bluetooth モジュール、表面波フィルタが大幅に伸長

5) 家電・その他 (192億円、前年同期比+27.7%) 家電は減少したものの、ディストリビュータ向けの 売上が増加

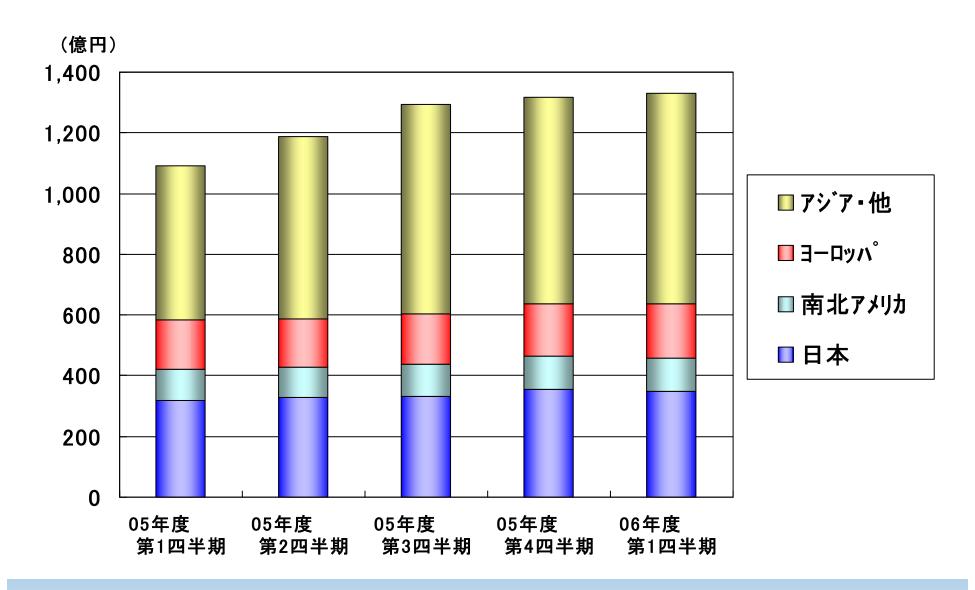
## 地域別売上高(2006年度第1四半期)



	2005年度		2006	年度	増減		
	第1四半期		第1四	半期			
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	
南北アメリカ	105	9.6	109	8.2	+4	+4.3	
ヨーロッパ	160	14.7	178	13.4	+18	+11.1	
アジア・その他	509	46.6	693	52.1	+183	+36.0	
日本	318	29.1	349	26.3	+31	+9.8	
製品売上高計	1,092	100.0	1,329	100.0	+237	+21.7	

## 地域別売上高(2006年度第1四半期)





## 損益概況 (2006年度第1四半期)



## 【利益増減要因(プラス要因)】

- 操業度の拡大
   05年度第1四半期:95% → 06年度第1四半期:105%
- 円安の進行05年度第1四半期:107円69銭
  - → 06年度第1四半期:114円50銭
- ・生産性改善、コストダウン

## 損益概況 (2006年度第1四半期)



#### 【利益増減要因(マイナス要因)】

•減価償却費

05年度第1四半期:98億円

→ 06年度第1四半期:103億円(+5.4%)

・販売費及び一般管理費

05年度第1四半期:173億円

→ 06年度第1四半期:186億円(+7.5%)

・SyChip社の買収に伴う一時的な費用 約20億円(研究開発費)

・製品価格の値下がり

## 業績概況 (2006年度第1四半期)



	2005年度		2006:	年度	増減	
	第1四半期		第1四半期			
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	1,096	100.0	1,333	100.0	+238	+21.7
売上総利益	431	39.3	548	41.1	+117	+27.2
営業利益	174	15.9	253	18.9	+79	+45.4
税引前利益	183	16.7	274	20.5	+90	+49.3
当期純利益	115	10.5	158	11.8	+43	+37.0

## 業績予想修正(2006年度上期)



	2005年月	度上期	2006年度上期		2006年月	度上期		増	減		
	実網	漬	従来-	予想	今回-	予想	前年同	司期比 前回名		公表比	
	(前年[	司期)	(06年4月	引公表)							
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	
売上高	2,289	100.0	2,650	100.0	2,700	100.0	+411	+17.9	+50	+1.9	
営業利益	379	16.5	480	18.1	520	19.3	+141	+37.3	+40	+8.3	
税引前利益	393	17.2	495	18.7	545	20.2	+152	+38.6	+50	+10.1	
当期純利益	248	10.8	310	11.7	330	12.2	+82	+33.1	+20	+6.5	

<sup>※ 2006</sup>年度下期の業績見通しは見直していない。

## 直近の受注状況



## 全体的に堅調に推移し、変調は見られない

- ・製品別では大容量コンデンサ、低ESLコンデンサを 始めとしたチップ積層セラミックコンデンサ、Bluetooth <sup>®</sup> モジュール、表面波フィルタ、ジャイロセンサなどが好調 を維持
- ・用途別では携帯電話、ノートPC、MPU向けが 好調に推移

## 業績予想の前提(2006年度上期)



		05年度上期	06年度上期	06年度上期	増減				
		実績	従来予想	今回予想	前年同	前年同期比		前回公表比	
		(前年同期)	(06年4月公表)		(金額)	(%)	(金額)	(%)	
減価償却費	億円	204	210	220	+16	+7.7	+10	+4.8	
販売費及び 一般管理費	億円	348	380	380	+32	+9.3	ı	ı	
研究開発費	億円	172	180	200	+28	+16.1	+20	+11.1	
設備投資額	億円	216	420	420	+204	+94.2	I	I	
値下がり率	%	8.1	5	5		<b>A</b> 3	_	_	
為替レート(*)	円/US\$	109.48	115.00	114.75		+5.27		▲0.25	

(\*) 2006年第1四半期実績:1米ドル=114.50円 2006年第2四半期以降見込:1米ドル=115.00円(従来より変更なし)

## 用途別売上予想(2006年度)



#### 【用途別売上高 前期比增減率実績・予想】

	2005年度	2006年度	2006年度
	実績	従来予想	今回予想
AV	+12.7%	+5 <b>~</b> 10%	+5%程度
通信 計	+21.5%	+15~20%	+20%程度
(内携帯電話)	(+31.0%)	(+25%程度)	(+25 <b>~</b> 30%)
PC及び関連機器	+17.0%	+5 <b>~</b> 10%	+10%程度
カーエレクトロニクス	+6.5%	+5 <b>~</b> 10%	+5 <b>~</b> 10%
家電その他	+7.7%	横ばい	横ばい
計	+15.6%	+10%	+11%

## 製品別売上予想(2006年度)



#### 【製品別売上高 前期比增減率実績・予想】

	2005年度	2006年度	2006年度
	実績	従来予想	今回予想
コンデンサ	+11.6%	+10%程度	+15%程度
圧電	+3.8%	+5%程度	+5%程度
高周波デバイス	+48.0%	+20~25%	+20~25%
モジュール	+8.3%	+5%程度	±0%程度
その他	+12.1%	+5%程度	+5%程度
計	+15.6%	+10%	+11%



当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようにお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する 責任を負いません。